

# 三河商人道

PART  
158

ハヤカワカーサービス

代表

早川 幸夫 君



## 青年部とは 「自動車という暖機運転」

ハヤカワカーサービスの早川幸夫君から、岡崎商工会議所青年部そして経営者としての経験をお聞きしました。

自宅を訪問し、別棟の書斎でお聞きしました。書斎には一台が数百万円の高級バイクがずらりと並んでいました。綺麗に磨き上げられた美しいバイクたちが、早川さんの会社・仕事への思いを無言のうちに伝えてくれているようでした。「昔から自動車やバイクが好きだった。自分で整備もするようになった。」と早川さんは煙草に火をつけながら話してくれました。もともとは自動車関連の会社で働かれていましたが故あって退職することになり、再就職先の紹介もありましたが、一先ずは自分でやってみようと考え創業することにしたそうです。「一応、半年間だけ頑張ってみよう和家人には伝えたが、ちゃんと業績は軌道にのると自信はあったよ。」の言葉は、これまでの研鑽から身につけた技術力があるからこそだと感じました。創業時は出張整備でしたが、現在は自分の整備工場を持ち営業されています。業務内容は高級外車も含め自動車の整備販売まで行い、地元岡崎から周辺の自動車会社まで幅広く取引をされています。自動車整備には、そのメーカー固有の整備道具があり、メーカーそして車にあわせて整備していかなければならないそうです。「もともと自動車やバイクが好きだった。しかし自動車やバイクを扱うことが仕事になり、好きという気持ちは消えたかな。」の言葉は、アマチュアではなくプロフェッショナルだからこそと思います。

もともとは創業前からツーリング仲間である株式会社シバタの柴田和弘さんの紹介で、額田商工会に入会されていました。その後、岡崎商工会議所青年部は元気があり面白いと聞かれ、2010年6月に入会されました。

「岡崎商工会議所青年部での思い出は？」と聞くと、阿知和君の総務委員会でのお花の手作りだと話してくれました。総会準備のため、阿知和君と薄い色紙を重ねて手作りのお花を作ったことが、とても思い出深いそうです。最後の委員会活動である27年度総務委員会でもお花の手作りをすることになり、着実に受け継がれていたのを知り嬉しかったと話してくれました。来賓である高雄IMCのメンバーのために、台湾を意識した色紙でお花を手作りしたことから、「おもてなし」の心はとても大切だと学ばれたそうです。

もともと趣味は自動車とバイクでしたが、趣味から仕事へ変わりました。今は別棟の書斎を改築しバーカウンターを作ったりされるそうです。カウンターには多くの酒瓶のコレクションが並びますが、すべて来客用だそうです。「今は飲まない。すべて飲みつくしたなという感じになり、お酒はやめた。まだ煙草はやめられない。いつか達成感ができたらやめるかもしれない。」の言葉は、趣味も仕事もことんやりきることを教えてくれています。「曲がったことは大嫌い。筋はとおす。」を常に意識されているそうです。

「青年部とは自動車という暖機運転だ。」「青年部の仲間と過ごす時間は、まさに走り出す前の暖機運転だと思う。卒業が本当のスタートなのかもしれない。」と早川さんは考えるそうです。

インタビュー後、「これまでの多くの自動車と接し、おすすめの自動車はありますか？」と質問したところ、「それぞれ自動車にはそれぞれの良さがある。一つの自動車がすべての良さを持つことはない。車一台一台には求められている役割があり、それを知り引き出してあげるのが俺の仕事」と早川さんが教えてくれました。これは我々が営む会社、参加する岡崎商工会議所青年部の活動、それぞれに共通することだと感じました。



取材担当/  
総務委員会  
深谷武史、水越晴彦、  
磯部晃作、櫻井喜朗、  
阿知和司、前田晋作